

千年の森便り N097

2011. 10. 18

ちば千年の森をつくる会

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

お知らせ

臨時活動日(シダ植物調査)

日 時：10月31日(月) 9時30分 県民の森「木のふるさと館」駐車場集合

活動内容：日本シダ学会会員の倉俣武男先生をお迎えし、シダ植物などの植物調査・観察。

11月の活動日

日 時：11月20日(日) 9時30分 県民の森「木のふるさと館」駐車場集合

活動内容：シカ個体数調査、森林整備、巨木林調査、植物調査、野鳥調査など
(森林整備に参加される方は、ヘルメット、鋸、鉋などをお持ちください)

活動の記録

10月10日(祝) 晴

参加者：安藤彰浩、新井通子、伊藤道男、鶴沢和男、大賀宣彦、甲斐順子、苅米均、栗山忠俊、小又哲、坂本文雄、中田利明、中田真也子、家族5名、福島成樹、降旗治幸、真鍋昌義、宮林八男、南武美、南小春、村野忠夫、山口衛、会員及び家族25名、吹春俊光講師、吹春公子さん、千葉菌類談話会、自然観察ちばなどの参加者20名 合計45名

「秋のキノコ観察会」

夏に続き吹春講師をお招きして開催した秋のキノコ観察会は秋晴れの良い天候には恵まれたものの、何故かキノコに恵まれず、期待を裏切る観察会となりました。単独行動の禁止・危険区域への立入禁止など安全上の注意の後、自由行動グループと講師案内グループに分かれて午前中フィールド観察、午後は講師による同定とキノコのお話に聴き入りました。(真鍋)

○フィールド観察

千年広場を出てホテイ岬に向かういつもの観察コースにキノコが殆ど無い、鮮やかなニガクリタケ(毒)はあちこちに散見されるが、豊英島秋の定番のウラベニホテイシメジが無い、サクラシメジも2株のみ、ホテイチク防護柵内に入って丹念に探しても、島名物のコウタケは皆無。自由行動グループも採れたキノコは少なく、バカマツタケも無い、ベテランの眼力と執念も「自然」には勝てなかったようです。

03年にキノコ観察会を始めて以来9回目の秋の観察会、吹春先生のご指導いただくようになって、夏を含め7回目で、キノコの最も少ない観察会でした。キノコの宝庫豊英島に期待して、遠路参加下さった皆さんの期待に添えず残念でした。(真鍋)



集まったキノコを囲んで記念撮影
(吹春講師ほか総勢45名)



ホテイ岬でのキノコ観察



吹春講師の同定と解説
(熱心に聞き入る参加者)

○ 吹春講師のキノコのお話

この日採取・同定された全てのキノコについて、テキスト「顕微鏡を使わないやわらかいキノコのわけ方」に沿い、ヒラタケ科、キシメジ科、テングタケ科、イグチ科・・・そして硬いキノコ、ホウキタケやキクラゲに至るまで丁寧に解説頂きました。観察会参加者には栗山会員記録のお話の全文をお届けしますが、先生の校閲未済です。(真鍋)

○ 観察・同定されたキノコ 46 種

観察会終了後、吹春先生は中央博に試料を持ち帰って標本を作成し、当日観察・同定した目録を届けて下さいました。この日観察したキノコは硬いキノコを含め46種です。(真鍋)

キシメジ科	ミネシメジ、スギエダタケ、ツエタケ属、キチャホウライタケ、チシオタケ、ダイダイガサ、ヒロヒダタケ、サクラタケ、ヒメカバイロタケ
テングタケ科	コタマゴテングタケ？ドクツルタケ、テングタケ、コテングタケモドキ、ガンタケ
イグチ科	チチアワタケ、アミタケ、ヤマドリタケモドキ、スミゾメヤマイグチ
ベニタケ科；ドクベニタケ、ヒラタケ科；シイタケ、ウスヒラタケ、ヌメリガサ科；サクラシメジ、ハラタケ科；ザラエノハラタケ、モエギタケ科；ニガクリタケ	

(その他のキノコ)

ハカワラタケ、カイガラタケ、ニクウスバタケ、ウチワタケ、コフキサルノコシカケ、ヒイロタケ、アオゾメタケ、ツヤウチワタケ、ホウキタケ属、ホウキタケ属、ハナホウキタケ、ツノマタタケ、マツバハリタケ属、モミジウロコタケ、アラゲキクラゲ、チャウロコタケ、ネンドタケモドキ、ヒメツチグリ属、ハナビラタケ；クロハナビラタケ、エリマキツチグリ、ノウタケ、オニウスタケ

		
ツエタケの仲間 (撮：栗山忠俊)	ニガクリタケ (撮：坂本文雄)	サクラタケ (撮：栗山忠俊)

○ 豊英島の感想

千年の森に初めて訪れました。まず森が大変きれいという印象を受けました。会の方のご説明では、最初は竹が生い茂っていたとのこと。ここまで整備するのは大変なご苦労だったのではと推察されます。関係者以外の立ち入りが制限されている、島という独立した環境も興味深いと思いました。

「きのこの秋」に肝心のきのこが少なかったのは残念でしたが、気持ちの良い森の中を散策でき、楽しい一日となりました。ありがとうございました。(東京都 吉田悦子)



「その他の活動など」

○ クロヤツシロラン探し

新井通子さんと佐藤一枝さんは、一昨年10月智貴君がホテイ岬で見つけたクロヤツシロランがないか、落葉の下を丹念に探しましたが、今回も発見ならず残念でした。諦めずに今後も探し続けます。(真鍋)

○ 今度は竹製のメインテーブル作成

9月に竹製の荷物置き場の作成で鮮やかなお手並を見せた苅米さんであるが、会員の「もっとコール」に応じて今度はメインテーブルの作成に取り組んでくれた。2回目ということもあり、段取りも手際もよく、助っ人の鶴沢、山口会員との呼吸もぴったりで午前中に完成し、昼食に早速利用されるという早業で、キノコ観察会から広場に戻ってきた参加者もその鮮やかなお手並みに感嘆しきりだった。改めて苅米さんに感謝です(伊藤)

		
<p>師匠(苅米さん)と助っ人(鶴沢、山口さん)の奮闘で午前中に完成</p>	<p>早速昼食に利用した (撮:佐藤一枝)</p>	<p>ツチアケビに支柱を添える (撮:坂本文雄)</p>

○ 野鳥記録

トビ4+声 カワセミ1 コゲラ声 ヒヨドリ声 モズ声 エナガ1+声 ヤマガラ1+声 シジュウカラ声 ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 10種

豊英島周辺になぜトビが多いのか質問が有りました。

理由は餌になるヘラブナが多いだからです。

ヘラブナ釣りは食用とはせず、単に釣りを楽しむのと釣果を競うだけでカウント、計量後に放流しています。しかし、この間に弱って水面に浮くものや死ぬものもあり、トビの餌になっています。ダム湖ができる前にトビはこれほど多くはありませんでした。漁港や水産加工場の周辺も餌が豊富なので大群が見られます。坂本(文)

○ ちばの自然に親しむ会が来訪

10月18日に20名が来訪し、キノコ観察と採集をさせていただきました。

最初にコウタケ4、5本が大株状に発生しているのを見つけて大興奮、暫く見とれた後は、写真撮影の順番待ちとなりました。ウラベニホテイシメジは幼菌が顔を出したものの、水分不足で成長が止まっているように見えました。それでも70本ほど採れたので、皆満足顔でした。バカマツタケは出ていませんでした。

10日の観察会で吹春先生がご指摘の通り、今年はキノコの発生が遅れ気味だとおもいます。

最後に全員のお土産とする為に人数分の山を作り、阿弥陀くじで引き取りの順番を決めました。

これが本当の山分けです。どの山が良いか下見も真剣で、ワイワイガヤガヤと賑やかな楽しい一時でした。

貴重な空間を提供して下さった、ちば千年の森を作る会に大感謝です。 坂本(文)記



見事なコウタケの株



ホウキタケの仲間



どの山が良いかな 山分け前

 **セブン-イレブンみどりの基金**
一般財団法人 **セブン-イレブン 記念財団**

この活動は 2011 年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の
公募助成を受けています

